

1人1台端末時代の学校図書館担当指導主事の仕事と知識(概要)

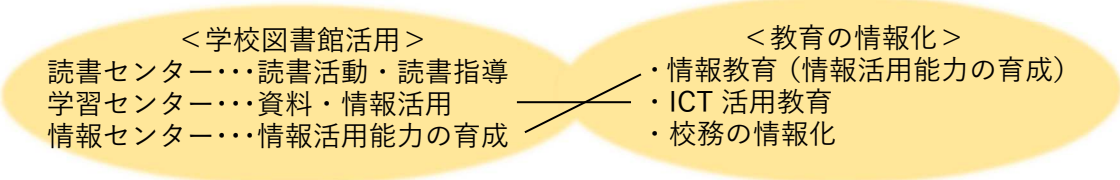
「学校図書館の整備」から「ICT 担当者との協働」まで
教育委員会のできること、学校のできること

目的

- GIGA スクール構想が始まり1人1台端末時代となったが、学校現場での端末等の利用程度は千差万別であり、従来の学校図書館像しか有していない学校図書館担当者も多く、試行錯誤の状況と言える。
- この試行錯誤の学校現場を支援・指導する指導主事は、学校図書館を専門に学んできたわけではない。そこで、①学校図書館の基礎知識と ②学校の管理者や教職員への対応のヒントを提供する。

1 指導主事のための学校図書館基礎知識

- GIGA スクール構想では、「これまでの教育実践」と「最先端の ICT」のベストミックスを図ることが求められている。
- 学習指導要領に、学校図書館の利活用で「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた「授業改善」が示されている。
- 学校図書館は、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能をもっている。
- 「読む力」はすべての学びの基盤である(読書センター機能)。「情報を使う力」(情報活用能力)は初めて出会う状況においても推測して主体的に行動できる力であり、探究のプロセスを繰り返し経験させることにより培われる(情報センター機能)。また、教科等の学習において、学校図書館の資料・情報の活用により思考力・判断力・表現力が深まり授業改善につながる(学習センター機能)。
- 「学校図書館活用」と「教育の情報化」には共通領域がある



- 学校図書館で育成する情報活用能力は、多様なメディアを対象とし、学び方を学ぶことを基底としたもの。教育の情報化で育成する情報活用能力は、コンピュータ利用を基底としたもの。
- 両者の情報活用能力の育成とも、探究のプロセスを経験させ情報スキルを獲得させる。
- したがって、両者は協力・連携・統合していくことが必要であり、現場では、この動きが始まっている。

2 都道府県教育委員会ができること, 3 市町村教育委員会ができること

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1.教育委員会の役割 | 7.情報提供 |
| 2.体制づくり | 8.啓発・広報 |
| 3.学校図書館の整備推進 | 9.各教科担当指導主事との連携・協力 |
| 4.学校図書館活用の推進 | 10.ICT活用教育担当指導主事との連携・協力 |
| 5.学校訪問 | 11.ステップアップで取り組もう |
| 6.調査研究・評価 | |

<参考例>
学校図書館担当者
とICT 担当者の合同研
修会を実施している
例もある。

4 学校ができること

- 1.学校図書館の整備
- 2.校長(館長)ができること
- 3.学校図書館担当者(司書教諭と学校司書)ができること
- 4.教員ができること
- 5.ICT活用教育の担当者やICT支援員との協働でできること
- 6.ステップアップで取り組もう

<参考例>
校内組織には、学校図書館教育部
とICT活用教育部、視聴覚教育部の3者
を統合して「学校図書館情報教育部」とし
て情報活用能力の育成にあたる
例もある。